

令和 6 年度宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 令和 7 年 2 月 6 日（木） 9：30～11：00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| ・石塚 諭委員（宇都宮大学）【会長】 | ・櫻井 政義委員（市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会） |
| ・平野 勝委員（篠井地区ゆたかなまちづくり協議会） | ・早川 慎一委員（市レクリエーション協会） |
| ・大野 英克委員（県林業センター場長） | ・月橋 春美委員（県キャンプ協会） |
| ・坂内 剛至委員（有限会社ネイチャープラネット） | ・須田浩太郎委員（市小学校長会） |
| ・佐藤 要委員（市 PTA 連合会） | ・高橋 裕一委員（市中学校長会）【副会長】 |
| ・大関 啓二委員（市子ども会連合会） | ・塚原 綾子委員（公募） |
- （事務局）

山崎 正士所長，駒野 拓也副所長，平山 絵夢指導主事，佐藤 直樹指導主事

○欠席者氏名 ・森嶋 礼奈委員（公募）

○公開 （傍聴者の数 0 人）

1 会長・副会長の選任について

2 報告事項 令和 6 年度事業報告について

事務局：（資料に沿って説明）

会長：ご意見，ご質問はあるか。

（1）学校受入事業について

須田委員：冒険活動教室では学校生活では見られない子どもの姿が見られる。学校では意欲的でない子どもが，イニシアティブゲームや登山において積極的に取り組む姿勢に担任も驚いている。非日常的な環境は，子どもたちを多面的にみることができる機会をつくり出している。コロナが明け 2 泊 3 日に戻り教育的効果が高いと改めて感じている。

会長：アンケート結果のデータ等に関連して何か意見はあるか。

坂内委員：アンケート結果を全職員にも示し，結果がよくなかったところは改善が必要と捉え，今後の指導・プログラム開発に活かしてほしい。

会長：アンケート結果の発信について検討していただきたい。子どもたちのアンケート結果は満足度が非常に高いがマイナスな回答はあったか。

事務局：児童生徒のアンケート結果は全体的によい回答である。

会長：情報発信の仕方として，ホームページで掲載する際は小学生と中学生の結果の違い，逆転項目が一目でわかるような工夫があるとよい。日本の子どもの自己肯定感世界的にみても低い。データを加工し活動の効果を発信していただきたい。

高橋委員：登山の活動において今年度は国有林伐採があり，代替コースで実施したが新たな発見があってよかった。国有林伐採は今後どのような計画か。

事務局：昨年 11 月に終了し，今後の予定については今のところ伐採の予定はない。

月橋委員：冒険活動教室を通して上がった自己肯定感や先生方の子どもたちに対する新たな気づきは，学校へ戻ってから具体的にどう活かされているのか。もし追跡調査が実施できれば，小学校と中学校での結果の比較で下がった数値によっては冒険活動教室だけでなく学校生活でもできることを考えるよい機会になるかもしれない。

会長：すぐに実施は難しい面もあるかと思うが非常に重要な視点である。学校現場に戻ってからはいかがか。

高橋委員：学校でも高まった自己肯定感を冒険活動教室だけで終わらせてしまうのはもったいないと感じている。中学校では総合的な学習等を通して振り返り，

まとめたものを保護者会等で生徒主体の発表をしている。保護者の前という「緊張感のある場で発表することが出来た経験」がさらに自己肯定感を上げていていると感じている。引き続き2泊3日の冒険活動教室の実施前後で様々な活動を通して育てていきたいと考えている。

塚原委員 : 特別な体験の後は家庭にも持ち帰ってくるものが大きいと感じた。家族内・日常内にどう落とし込んでいくのかを家族でも考え、継続的に取り組み活かしていきたい。保護者の立場として保護者間でも伝えていきたい。

会長 : 冒険活動教室での自己肯定感の高まりが一時的なものではなく継続的になるようにお願いしたい。

大野委員 : 小・中学校で「カーボンニュートラル・脱炭素」を盛り込んだ取組ができないか。自然の端材を使った木工、丸太切り体験、ドローン等を提供したことがある。森林や山のよさを伝えられるよう協力したい。

高橋委員 : 中学生では「カーボンニュートラル・脱炭素」は興味のある分野である。ぜひ提供していただきたい。

大野委員 : 建物も新設し視察が1年で、約2000人の来場であった。冒険活動教室の帰りに立ち寄っていただき、少しでも最新鋭の木造など木の加工の素晴らしさを見てもらえたらありがたい。

佐藤委員 : 野外炊飯や食事において、地元篠井の食材を取り入れているのか。

事務局 : 主催事業 Bouken Day! の第1回目は篠井生涯学習センターとの共同開催であり、次年度の実施内容案として地元の食材を使ったものがないかとお話をいただいている。篠井産のりんごやきのこを使った野外炊飯を検討している。

佐藤委員 : 学校給食では地産地消が推奨されているが、冒険活動センターでも篠井の豊かな自然を生かして食材も活用できればよりよいと考える。

会長 : 予算の関係上難しい部分もあるかもしれないが、前向きに検討していただきたい。

大関委員 : レストラン運営において食物アレルギーは報告すれば対応はしてもらえるのか。

事務局 : 食物アレルギーについては、学校受入も一般受入も事前に連絡をいただき対応した食材で食事を提供している。好き嫌いについては、冒険活動センターでは食事の提供方法をバイキングのような自分でとるスタイルをとっているため調整ができる。

塚原委員 : 「リフィルうつのみや」に冒険活動センターが登録をした。こういった取り組みは生物多様性・食育につながっており、環境負荷を低減するという面でも子どもたちの教育に関わっていると感じている。子どもたちが冒険活動教室で経験したことがどう未来の問題解決につながっていくのかを学校だけでなく保護者としても問いかけていきたい。

事務局 : 冒険活動センターではSDGsについて考える中で、提供しているアクティビティについて一つ一つの活動がどのように環境に関わっているのかを見直したところである。今後も冒険活動教室でのこういった場面が環境により影響を与えられるのか検討していく。

会長 : いかにここで学んだことを外につなげるか非常に大事な視点である。

(2) 一般受入事業について

坂内委員 : 令和5年度の利用人数7,839人はアッパーなのか、オーバーなのか。だいたい適性人数はどれくらいなのか。

事務局 : 令和6年度の利用人数は4~12月の人数であるため、1~3月を見込むと令和5年度の利用人数を超える可能性がある。過去を鑑みるとまだ余力はある。利用人数が回復傾向にあり、まだ受入は可能である。

(3) 主催事業について

- 櫻井委員 : 冒険キャンプ, ちびっ子キャンプ, 家族ふれあいキャンプについて, 応募数が多いが回数を増やすことは難しいか。
- 会長 : 応募数を見るとかなりニーズが高い。実状を教えてもらってもよいか。
- 事務局 : 冒険キャンプについては, 当初は募集人数を 40 名としていたが, 安全面・指導面を考慮して指導体制を見直し 24 名に変更した。主催事業については好評であるため回数を増やしたいが, 日程の調整などの課題もある。貴重な意見として検討していく。

(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業について

- 平野委員 : ボランティアは募集をしているのか。地元の人は何人くらいいるか。ふくろうの巣箱は地元の人による設置ということだが, どういった形で実施となったのか。
- 事務局 : ホームページでボランティアの募集をしている。地元の方は今のところはいない。ふくろうの巣箱についてはボランティアではなく地域の方に声をかけていただき設置することとなった。
- 平野委員 : 地元は高齢化してきているが, 引き続き協力できる方を探していきたいと思っている。声をかけていただきたい。
- 会長 : ボランティアの人数が足りていない状況であれば, 広報を続けて欲しい。
- 須田委員 : ボランティアに限らず職員数の確保が難しい時代である。冒険活動センターの現状や募集方法について教えて欲しい。
- 事務局 : 4 月当初は専門指導員が 10 名欲しいところ 7 名であり, 3 名減でスタートした。募集方法は SNS・HP 等での募集, 知り合いの伝手, 大学等への声掛けである。

3 協議事項 令和 7 年度事業計画(案)

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 会長 : ご意見, ご質問はあるか。

(1) 学校受入事業について

(特になし)

(2) 一般受入事業について

- 平野委員 : 施設の大規模改修について, 具体的にどこを改修するのか。
- 事務局 : 来年度の予算もあるが, 管理棟ではエアコン, ロッジではデッキ・ホールの腐食部分, 野外炊飯場では屋根の雨漏り等危険箇所や活動に支障がでるところを中心に改修を行う予定である。今後アリーナも実施予定で考えている。
- 会長 : 改修によって受入人数に支障は出ないのか。
- 事務局 : 支障は出ない。

(3) 主催事業について

- 会長 : 人員確保が難しい中で新規事業もあり充実した内容になっている。この方向でお願いしたい。

(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業について

- 坂内委員 : コンプライアンス, ハラスメント問題は最近の課題であり, 野外施設での職員によるわいせつ行為の事例もある。指導にあたる会計年度任用職員の中に社会経験が少なく冒険活動センターに勤務している方がいるのならば, 職員研修の内容にハラスメントに関する研修が必要であると思う。
- 事務局 : 職員は児童生徒と間近に関わる機会が多い中で, 子どもたちは性別に関係なく触れられることを嫌うこともある。ハラスメントに関する研修を検討していきたい。

4 その他 今後の冒険活動センターの運営について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見, ご質問はあるか。

早川委員 : レクリエーション協会では, 会員が高齢化などの問題もあるが冒険活動センターの利用も検討していきたい。

大野委員 : 他機関との連携について, 令和 8 年の周年記念行事に向けて食育・木育などをするにあたっては, 農協や木材関連の団体に協力を依頼するのはどうか。団体の方は協力する姿勢が強い。必要な場合は団体に声をかけていく。

会長 : 現時点での見通しはどうか。

事務局 : 主催事業などでもお願いしたい。団体の方に施設を知ってもらうことも大切かと思う。